

【目 的】

愛媛県教育委員会では、幼稚園から高等学校までの保護者・教職員及び教育支援関係者、福祉関係者、企業関係者等が一堂に集い、学校・家庭・地域が連携した県民総ぐるみによる教育支援体制づくりについて学び合うため、平成25年度から毎年「愛顔でつなぐ“学校・家庭・地域”の集い」を開催しています。

- 1 **大会主題** 「社会総がかりで、愛媛の子どもたちを健やかに育てよう」
- 2 **日 時** 令和4年9月29日（木） 12:30～16:45
- 3 **場 所** 愛媛県生涯学習センター・えひめ青少年ふれあいセンター
- 4 **参 加 者** 207名
- 5 **視聴回数** オンライン・オンデマンドでの視聴 955回
- 6 **内 容**



(1) シンポジウム

テーマ：「“学校・家庭・地域”で築く子どもたちと地域の未来づくり」

- | | | |
|------------|--------------------------|--------|
| 【コメンテーター】 | ・新居浜市生涯学習センター 所長 | 関 福生 |
| 【シンポジスト】 | ・宇和島市地域学校協働本部 統括コーディネーター | 西村 久仁夫 |
| | ・NPO法人とべ子育て支援団体ぽっかぽか | |
| | 家庭教育支援員・子育て支援コーディネーター | 村上 明子 |
| | ・愛媛県愛護班連絡協議会 会長 | 石黒 忠則 |
| | ・スリーライズ株式会社 代表取締役 | 山内 満子 |
| 【コーディネーター】 | ・フリーパーソナリティ | やのひろみ |

(2) 分科会

第1分科会【地域学校協働活動】

幅広い地域住民の参画により、学校と地域が連携して子どもたちを育てる体制づくりをどのように進めるか

- ＜発表1＞ 地域の皆で 心豊かな たくましい垣生っ子応援隊
垣生校区地域学校協働本部 垣生公民館 館長 高尾 美好
- ＜発表2＞ 「み」んなが「さ」いこうに「き」らきら輝ける学校づくり・まちづくりを目指して
愛媛県立三崎高等学校 教諭 津田 一幸、代表生徒、公営塾 塾長 神宮 一樹

第2分科会【地域による教育機会の充実】

全ての子どもたちへの教育機会の充実を図るために地域の支援体制づくりをどのように進めるか

- ＜発表1＞ 日本語を母語としない子、帰国生徒等への学習支援の実情と課題
にほんご未来塾 地域コーディネーター 柳川 五郎
- ＜発表2＞ 「土曜塾」学習支援事業における教育・福祉の連携と青少年の社会性向上への取り組み
松山市青少年育成市民会議 事務局長 西川 暁

第3分科会【子育て・家庭教育支援】

保護者と子どもを支え育む子育て・家庭教育支援の体制づくりをどのように進めるか

- ＜発表1＞ 絆を深め、心の通った温かい支援を目指して
四国中央市家庭教育支援チームふれ愛グループ チームリーダー 藤田 典子
- ＜発表2＞ 笑顔あふれるPTA活動
愛南町立あいなん幼稚園PTA 会長 野田 恵子、前副会長 大野 真由

第4分科会【放課後・土曜日等の子どもの支援】

子どもたちの放課後等の豊かな教育活動をどのように進めるか

- ＜発表1＞ 放課後・休日子ども教室～地域の子どもは地域の手で～
田之筋放課後子ども教室実行委員会 会長 宮本 純夫
- ＜発表2＞ 「子ども夢会議」～松前のええとこ見つけようや～ ～町の未来を話そうや～
まさきーいいとこ見つけ隊 副隊長 和田 由美子

第5分科会【ICT時代の教育支援】

子どもたちのICT環境が大きく変化する中で、地域の教育支援をどのように進めるか

〈発表1〉 ICT/IoTで地域の課題が解決できる人材育成

松野町教育委員会 地域教育プロデューサー 六車 浩二

〈発表2〉 デジタルネイティブ世代の教育と、デジタル機器との付き合い方

株式会社愛媛CATV スマホ講師 浅野 正人

7 アンケート結果、参加者の感想等

【参加者の感想（シンポジウムについて）】

- シンポジストのみなさんのパワー・情熱がすばらしく、聞いてただけで元気をもらえた。学校・地域・家庭それぞれの思いを子どもたちの成長や地域の活性化にうまく生かしていくためには違う立場の人たちの思いをつなぐ役の存在が大切なのではないかと感じた。シンポジストの方のように、地域のため、子どものために自分の力を生かす人材は、生かされる場があってこそだと思う。そうした場を創ることも人材育成につながるのではないかな。
- 発表をしていただいたみなさんのような熱い思いをもった大人が増えるといいなと思った。子どものための活動が大人のためにもなり、やがては地域のためにもなるというサイクルについて理解が深まった。小さなことでも、自分ができることをしていきたいと思った。

【参加者の感想（分科会について）】

- 事例発表を聞いて、子どもと地域のために一から考え、どうすればよりよいものになるか考え実行している人はすごいと思った。その中で、子どもたちはたくさんの経験と学びを得ていると思う。課題や大変なことが多いと思うが、とても素敵な活動なのでずっと続けてほしい。
- 「地域の中の学校」であるという当たり前のことを強く再認識した。地域防災の取組が盛んな地域に学校があるので、その辺りから、地域・学校・家庭のつながりを強めていけるとよいと思った。

【参加者からの提言】

- 「大人が楽しむ」ということの大切さを改めて感じた。忙しさのせいもあり、日ごろ地域のいろいろな行事を楽しさより大変さの方にスポットを当ててしまいがちだった。自分自身がまずは楽しみ、活動する姿を子どもたちに見てほしいなと思った。子どもたちが大人になったとき地域を愛し、そこに住む人を愛することにつながると感じた。
- 子ども時代に周りの人々から受けた優しさや感動は、いつまでも心に残り続ける。そしてその次の世代にきっと伝えられていくと思う。そんな子どもたちを育てていきたい。

8 今後に向けて

今年度の「集い」は、10回目の記念開催としてシンポジウムと分科会を行い、参集とオンライン（シンポジウムのみ）のハイブリッド開催としました。シンポジウムのテーマは、「『学校・家庭・地域』で築く子どもたちと地域の未来づくり」とし、長年、県内で活動続けてきた方々に御登壇いただきました。アンケート結果では、99%が肯定的意見となりました。分科会においても、肯定的意見が100%とどちらも非常に高い評価を得ることができました。

今後も、現代的課題に沿ったテーマを設定し、参加者属性やニーズ、現代的課題と社会の要請等を検討しながら、学校・家庭・地域の連携・協働について、社会総がかりで考えていく「集い」にしたいと考えています。ぜひ、令和5年度も御期待ください。

なお、これまでの「集い」のダイジェストや今後のお知らせ等を県教育委員会社会教育課HPに掲載しております。お時間がありましたら、御覧ください。

(<https://ehime-c.esnet.ed.jp/shougai/tsudoi/tsudoi-top.htm>)

